

安政南海地震で発生した火災の延焼範囲推定と焼止まり地点の特定

南怜奈*(徳島大学)・馬場俊孝(徳島大学)

§1. はじめに

地震により発生する被害として、揺れによる建物倒壊や津波、地すべりなどが挙げられるが、火災も無視できない。歴史地震においても火災の記録が多数存在するものの、整理が不十分である。そこで本研究では1854年安政南海地震において徳島県、和歌山県、高知県で発生した火災の状況を古文書と絵図から読み取った。火災状況を整理し、延焼範囲の推定と焼止まり地点の特定を行った。主に使用した史料は、「新収日本地震史料第5巻別巻5-2」、「和歌山県災害史」、「御城下絵図」、「小松島浦方絵図」、「田辺城下図」、「高知市街全図」である。

§2. 火災発生地域

徳島県では、徳島市内町、安宅、吉野本町、川内町、小松島市の5地域、和歌山県では和歌山市、田辺市、新宮市の3地域、高知県では高知市、宿毛市、宇佐、仁ノ村、中村、潮江の6地域で火災が発生した。(図1)このうち、詳細な記録が残されていた火災は徳島市内町、小松島市、田辺市、高知市、宿毛市の5地域であった。

§3. 延焼範囲・焼止まり地点

徳島市内町

「佐古郷土史」によると、町人町の3ヶ所から出火し、23時間で町人町と武家屋敷の一部を焼き、死者73人、怪我人131人の被害が出た。「御城下絵図」から焼失した屋敷の場所、内町が町人と武士が住む町であったことが分かり、延焼範囲は0.309km²(東京ドーム6.6個)、焼止まり地点は水辺、道路、屋敷、塀が特定できた。

小松島市

「小松島市上巻」によると、町人町の料理屋から出火し、13時間で町人町全体を焼き、348軒が焼失したが、死者怪我人は出なかった。「小松島浦方絵図」から出火位置が分かり、延焼範囲は0.163km²(東京ドーム3.5個)、焼止まり地点は水辺、道路、寺院、塀が特定できた。

田辺市

「和歌山県災害史」によると、揺れにより倒壊した家から出火し、下級武家屋敷を中心に38時間かけて家屋355、寺社3を焼き、死者1人、怪我人が多数出る火災であった。「田辺城下図」から焼止まり地点となる堀や川が多数存在したことが分かり、延焼範囲は0.144km²(東京ドーム3個)、焼止まり地点は水辺、道路、屋敷が特定できた。

高知市

「土佐国大地震并御城下大火事且大汐実録」によると、城下町の16か所から出火し、1日以上かけて下町の東部を焼き、建物2600焼失、死者150人の被害が出た。「高知市街全図」によると、焼失した町は町人町であったことが分かり、延焼範囲は0.545km²(東京ドーム11.6個)、焼止まり地点は水辺、道路が特定できた。

宿毛市

「嘉永土佐地震記」によると、町人町の潰家3ヶ所から出火し、12時間で鎮火した。安政南海地震前の宿毛図(林家蔵)から、この地域は宿毛城、武家屋敷、町人町、田畑があったことが分かった。延焼範囲は0.168km²(東京ドーム3.6個)、焼止まり地点は屋敷、道路が特定できた。

§4. 考察・まとめ

安政南海地震によって発生した火災の出火地点は潰家や町人町であった。延焼範囲に関しては、高知市が最も大きい火災であった。これは出火地点が16か所存在したためだと考えられる。田辺市においては焼止まり地点が多数存在したため、面積が最小であったと考えられる。焼止まり地点に関しては水辺や道路、屋敷、塀が特定でき、これらが火災の拡大を防いだことが分かった。

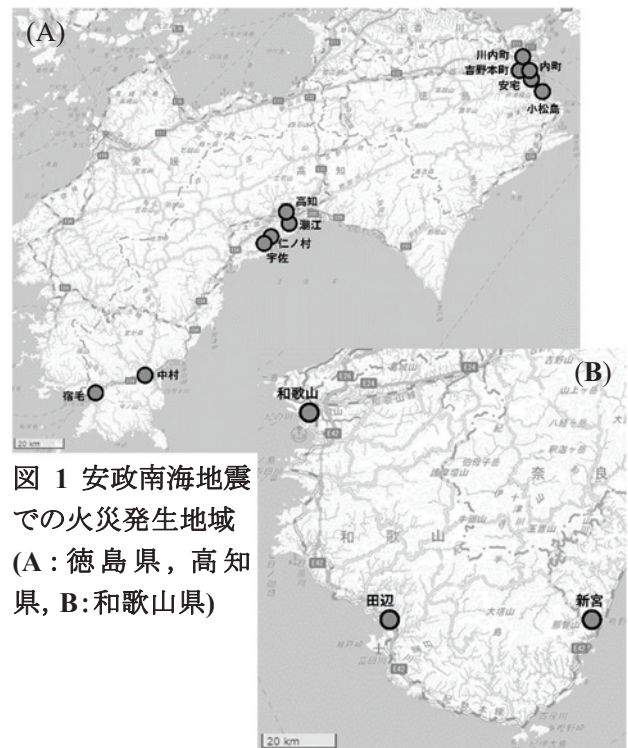


図1 安政南海地震での火災発生地域 (A: 徳島県, 高知県, B: 和歌山県)